

(No. 3) Caritas, Unna

カリタス

所在地：Höingstr. 5-7, 59425 Unna, NRW Tel：02303-25135-0

設立：1971年

従業員数：専従職員 150人、契約職員 80人

ウナ市に本拠を置くカリタスは、カトリック教会系の福祉団体であり、ウナ市内だけではなく、その活動範囲は広くウナ郡に渡る。ウナ郡行政管区にはウナ市（Unna 人口約 6.7万人）をはじめ、シュヴェルテ（Schwerte）、カーメン（Kamen）、ホルツヴィッケデー（Holzwickede）、ハム（Hamm）、ベーネン（Bönen）の各都市が包括されており、人口総計約 33 万人。うち 7.13%にあたる約 2 万 4 千人が外国籍を保有する住民（移民）である。そのうち 8 人が日本人であり、ウナ市には 1 人、カーメン市には 2 名の日本人が在住していることが判明している。その 3 者とも 60 歳以上。外国籍を保有する住民の割合が少ないとはいえ、ウナ市だけで 94 の国籍の外国人が居住しているという土地柄、外国人融和政策にはウナ郡だけでなく、民間福祉団体であるカリタスも非常に力を入れている。ここにウナ郡のカリタスの課題・活動分野を紹介する。

1. 母親・父親および子供の保養

子供を養育する両親の心身の力が尽きたとき、保養をすることによりリハビリが可能になる。その費用を健康保険で申請する場合煩雑な手続が必要とされる。その際カリタスの相談所でアドバイスを得ることができる。

2. カリタス・ソーシャルステーション

1971 年のウナ郡カリタス設立以来病人および高齢者のお世話をすることがカリタスの中心的な課題として位置付けられている。介護を必要とする人々には必要に応じ様々なサービスが提供されている。

3. 社会教育学的な家庭援助

父親または母親が病気や死亡により、または母親が妊婦で家事をする人がなくなった場合、誰が子供達の面倒を見るのであろうか？そういう状態に陥った人々のためにカリタスは社会教育学的な観点から家庭援助を行っている。担当者は介護、教育、及び家政などの専門教育を受けた人々であり、彼らは掃除、買い物、お料理をするだけでなく、子供達の宿題の面倒を見、家族の心配ごとの相談にも乗る。

4. キリスト教センター

カトリック教会系の福祉団体がカリタスとすると、プロテスタント教会系のそれはディアコニーである。両者とも協力しつつ人々が困難に遭遇したときに援助の手を差し伸べている。彼らはキリスト教の基本信念の基づき援助を必要とする人々の尊厳を尊重しつつ行動する。

5. 非常用緊急連絡サービス

高齢、病気、または障害ゆえに住み慣れた自宅を出なければならないというのは昔の話。カリタスの非常用緊急サービスにより非常時にボタン一つで早急に援助の手が差し伸べられる。

6. 食事配送サービス

カリタスの食事配送サービスの歴史は長く、32年来高齢者や介護を必要とする人々に暖かい食事が届けられている。料理されたばかりの美味しい食事をするということは自宅で生活する人々が保有する自由な選択権の一つである。毎日2種類のお料理の中から自分の好きなお料理を選べる。

7. ショートケア

1980年に設立されたショートケア施設では入居者は数日から最長4週間滞在することが出来る。30人の各分野の専門家たちとボランティアの方々のお手伝いで入居者は介護を受けることができる。25床あるショートケアにはロシアからの後期移住者（ドイツ人）、旧ユーゴスラビアの人々が入居していた時期もある。現在はドイツ人入居者のみ。カリタスは老人・介護ホームを併設していないが、聖ボニファチウス介護・老人ホームと緊密な協力体制をとっている。

8. 住居不特定者の援助

住居不特定者、または路上生活者が尊厳のある生活を取り戻すことが出来るよう、カリタスは相談所を設けている。下記の項目に関し情報提供し、相談に乗る。

- 定収入の確保
- 社会保険への導入
- 宿泊所、または住居の取得
- 社会的孤立状態からの脱却
- 必要に応じた援助をうけるための支援
- 自助の助を可能にする援助

9. 移民援助

移民がまず困るのは、役所での種々の事務手続きである。そこに援助の手が差し伸べられる。移民政策の中でも特に重点が置かれているのは、青少年のドイツ社会への融和であり、12歳から17歳までを対象に学校、職業、言語、役所関係、個人的および金銭的な問題解決の相談に乗っている。また27歳以上の成人を対象にした分野では、主に難民、亡命者で母国で虐待や拷問にあい精神的なダメージを患っている人々の相談に乗る。さらには融和エイジェンシーとして独自で活動を行っているユダヤ系、イスラム系の団体も支援している。またプロジェクトの一つとして、移民が言語を早く習得できるよう、ドイツ人家庭との定期的な交流の橋渡しも行っている。ウナ郡のカリタスは、ショートケアなどを行う施設などで勤務する専従職員・報酬ベースの職員を対象に異文化コミュニケーション教育を行っている。まずはコンセプト作成からはじまり、参加者は通常各1.5時間の授業を15回受講。内容としては、移民が抱える心理的/精神的な問題（たとえばアイデンティティの問題）や、文化的背景を考慮した高齢者の介護などをテーマとして論理的およびメディアを使ってのロールプレイなどを通して実践的に学ぶ。それらにより関係者はまず問題を認識し、感入能力を養い、忍耐することを学び、異なる文化・宗教とのコミュニケーション能力を習得する。

10. 社会精神医学センター

人は誰でも精神的な病気になる可能性から免れない。その際病気はもとよりその病気が原因で社会から排除されることが問題である。カリタスの社会精神医学センターは彼らが社会復帰できるようお手伝いする。

11. 衣装室

経済的に困窮している人々は、新しい洋服などを購入する余裕がない人が多い。彼らのために、カリタスの衣装室が存在する。来訪者は、もしできればいくばくかの寄付をすることにより自分が必要としている衣服をここで調達することができる。

12. カリタスのプロジェクト

1993年にフランシスコ修道僧によりルーマニアに孤児院が構築された。以来ここでは250人の孤児たちが自分の家を見つけることができた。ウナ郡カリタスは、児童援助プロジェクトをスタートし支援している。

2009年2月調査